

平成22年7月5日

国土交通省河川局

XバンドMP(マルチパラメータ)レーダの 降雨観測情報(web画像)の一般配信について

近年、神戸市の都賀川や金沢市の浅野川等、局地的な大雨（いわゆるゲリラ豪雨）や集中豪雨による浸水被害が頻発しています。このため、国土交通省河川局では、このような水害に対し、適切な水防活動や河川管理を行うため、平成22年3月末までに3大都市圏等（関東、北陸、中部、近畿）に11基のXバンドMPレーダを設置し、試験運用を開始しました。XバンドMPレーダの観測では、従来のCバンドレーダではとらえることのできなかつた降雨についても、詳細かつリアルタイムでの観測が可能となり、ゲリラ豪雨等による河川の水位上昇やはん濫等の危険度の予測精度が向上します。

今般、豪雨時の避難行動や防災活動等に役立てて頂くため、7月5日より、降雨観測情報（web画像）を一般に配信することとしましたのでお知らせします。<<http://www.river.go.jp/xbandradar/>>

問い合わせ先

国土交通省河川局

河川計画課河川情報企画室 田中、福田

代 表 03 (5253) 8111 (内線 : 35392, 35395)

夜間直通 03 (5253) 8446

XバンドMP(マルチパラメータ)レーダの 降雨観測情報(web画像)の一般配信について

1. XバンドMPレーダによる観測について<参考資料1>

XバンドMPレーダによる観測により、従来のCバンドレーダではとらえることのできなかつた降雨についても、詳細かつリアルタイムでの観測が可能となります。

配信画像については、それぞれの地域毎に広域図と拡大図により降雨状況が確認できるようになっております。

【XバンドMPレーダとCバンドレーダの比較】

	XバンドMPレーダ	Cバンドレーダ
観測間隔	1分	5分
最小観測面積	250mメッシュ	1kmメッシュ

2. 観測情報の河川管理等への活用について<参考資料2>

近年多発するゲリラ豪雨災害等に対し、適切な水防活動や河川管理を行うため、XバンドMPレーダから得られる詳細な降雨情報等を活用し、ゲリラ豪雨等による河川の水位上昇やはん濫等の危険度予測の高精度化を図ります。

また、今回の配信では、豪雨時の避難行動や地下街等の浸水しやすい地域等における防災活動に役立てて頂くため、現況の雨量画像とともに履歴画像(30分前から現況まで)を提供し、降雨域の移動状況が確認できるようにしています。

3. XバンドMPレーダに関する技術研究開発について

XバンドMPレーダについては、実況降雨の詳細な観測の他、3次元の雨や風の分布の把握が可能であり、気象庁や大学、民間企業等との連携を図ることにより、降雨予測技術の高度化や、洪水予測技術の高精度化等の技術開発を推進します。

<参考資料1> XバンドMPレーダについて

<参考資料2> 観測情報の河川管理等への活用について